

□ アナリスト週間相場予想

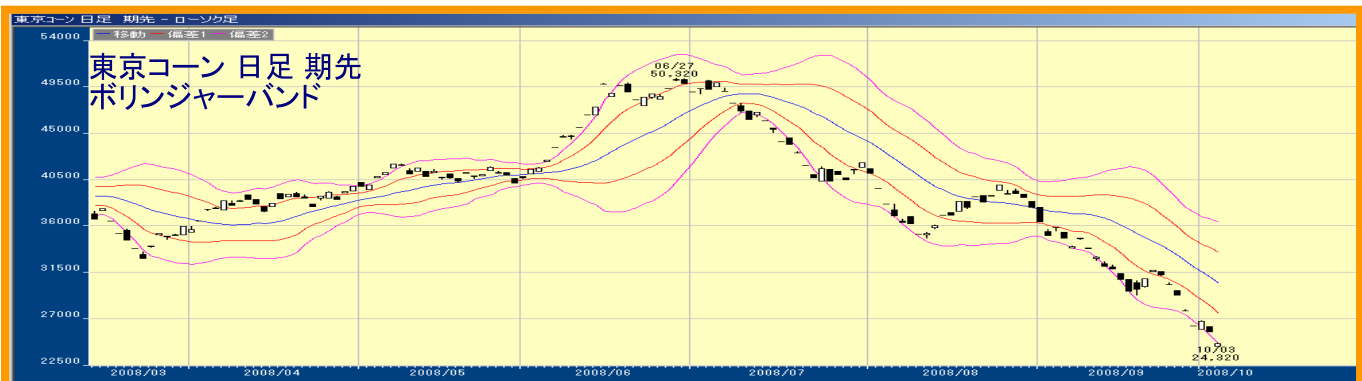
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 10/3 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告
- 6 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
USDAクロープ・プロGRESS
- 9 USDA週間輸出成約高
- 10 USDA需給報告
CFTC建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



コーンは海上運賃の下落や相場巧者の新規売り参入に叩かれ、ファンダメンタルズと内部要因は弱気に傾いている。唯一の買い方の生命線はここ数日見られる商社筋の東京市場買いであるが勿論彼等はシカゴのロングを解消したり、東京新規買いであればシカゴにショートを作っている。アウトライト(片張り)のプレイヤー達は新規で売り、買戻しこそすれ、新規買いは入れてこない。値頃で買いを入れる大衆玉が高値買い玉として取り残されているのが現状である。日足チャートは9/18安値29220円のサポートをブレイクダウンしてから戻りらしい戻りも入れずに下げ道中。ボリンジャーバンドの標準偏差 -2σ に沿って50000円の天井から数えて3度目の下降バンドウォークを示現している。心理的な節目25000円も割り込んでしまった現状ではとても買えるチャートでは無い。
一般大豆は内部要因的にコーンよりはマシであるというものの日足チャートは底抜けの格好。9/18安値49000円所がレジスタンスラインとして重く押し掛かる。戻り売り一貫で対処する他当方手立てが見つからずと感じる。
(10/3前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

米農務省が発表した四半期在庫(9/1時点)が市場予想の上限さえも上回る結果となり、ファンダメンタルズ面からシカゴ相場が崩れてしまった。また、海上運賃指数(バルチック・ドライ・インデックス、BDI)が連日の急落を見せ、今年5月につけた史上最高値から70%もの激しい調整に見舞われている。レーショニング(価格高騰による需要減退)の影響も強く出ており、穀物市場からはファンド資金の流出が確認されるなど、全くいいところがないのが現状である。次なるテーマは需給報告となるが、これは四半期在庫の発表内容から弱い数字が出るのは必至と見られている。ただ、これもある程度は織り込んでいると思われ、また日柄を残しているだけに発表後の反応は読みにくい。何かと売り要因の多い中で、リバウンド期待で突っ込み買いを狙っても成果は得られにくい。当面は戻り売り主体で臨むべきであろう。
なお、ファンドの動向に関しては、インデックス型の資金流出の早さが指摘されている。大豆の買いポジションは大方整理は終わった可能性が高いが、コーンはネットロングがまだ過去の水準と比して多く、原油の更なる調整などを伴えば売り圧力が続くものと考えられる。さらには、この状況であっても採算性の高さから来年もコーンの作付面積が拡大するとの見方もあるようだ。10日発表の需給報告では期末在庫率が最も注目されるが、これが9%台に乗るかどうかで、市場の評価もまた練り直される可能性が高い(9月需給報告では8.0%)。民間会社の予想がどう出るかにも注目である。